

製品安全データシート(SDS)

作成日: 2016年3月25日
改訂第3版: 2021年1月 4日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称

会社名: 田村製薬株式会社
住所: 埼玉県入間郡越生町成瀬829番6号
電話番号: 049-292-2150
緊急連絡電話番号: 049-292-2150
FAX番号: 049-292-2983

トライキル

推奨用途及び使用上の制限:

動物用医薬品
畜鶏舎の消毒 踏込み消毒槽の消毒
牛及び鶏のコクシジウムオーシストの殺滅を目的とする

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類:
可燃性・引火性ガス:
可燃性・引火性エアゾール
支燃性・酸化性ガス
高圧ガス
引火性液体

分類対象外
分類対象外
分類対象外
分類対象外
分類対象外

区分3
(輸送規定上は引火性液体から除外)

可燃性固体
自己反応性化学品
自然発火性液体
自然発火性固体
自己発熱性化学品
水反応可燃性化学品
酸化性液体
酸化性固体
有機過酸化物
金属腐食性物質

分類対象外
分類対象外
区分外
分類対象外

分類できない
分類対象外

分類対象外
分類対象外

健康に対する有害性:

急性毒性(経口)
急性毒性(経皮)
急性毒性(吸入:ガス)
急性毒性(吸入:蒸気)
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)
皮膚腐食性・刺激性
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性
呼吸器感受性
皮膚感受性
生殖細胞変異原性
発がん性
生殖毒性
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

分類できない
区分4

分類できない
分類対象外

区分4

分類できない
区分1C

区分1
分類できない

区分1
分類できない

区分1A

区分1(全身性、肝臓、腎臓)、区分3
(気道刺激性、麻酔作用)

区分1(神経系、肝臓、呼吸器、血液系)、区分2(脳、腎臓、中枢神経系)

環境に対する有害性:

吸引性呼吸器有害性
水生環境急性有害性
水性環境慢性毒性
オゾン層への有害性

分類できない
区分1

区分1
分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険有害性情報:

危険
引火性の液体及び蒸気
飲み込むと有害
吸入すると有害
重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
臓器の障害(肝臓、腎臓)
眠気及びめまいを起こすおそれ
呼吸器刺激を起こすおそれ
長期又は反復ばく露により臓器(神経系、肝臓、呼吸器系、血液系)の障害
長期又は反復ばく露による臓器(脳、腎臓、中枢神経系)の障害のおそれ
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き:

【安全対策】
容器を密閉しておくこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
保護手袋、衣類及び保護眼鏡、保護面を着用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
火災を発生しない工具を使用すること。

取扱後はよく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 粉じん、蒸気、ミストを吸入しないこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 取扱後はよく手を洗うこと。
 炎及び高温のものから遠ざけること。
 個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。

注意書き：
【応急措置】

飲み込んだ場合： 直ちに医師に連絡すること。手当てを受けること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
眼に入った場合： 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗浄を続けること。医師に連絡すること。
皮膚又は髪に付着した場合： 衣類を直ちにすべて脱ぐこと。皮膚、シャワー、石けんで洗うこと。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は医師の診断、手当を受けること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
吸入した場合： 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。呼吸が不規則又は停止した場合は気道を確保して人工呼吸を施すこと。
火災の場合： 適切な消火方法を取ること。
ばく露又はその懸念がある場合： 医師の診断、手当を受けること。漏出物を回収すること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

成分	官報公示整理番号	CAS NO.	含有率
オルトジクロロベンゼン	(3)-41	95-50-1	70%
クロルクレゾール	(3)-900	59-50-7	5%
塩化ジデシルジメチルアンモニウム		7173-51-5	12%
溶剤等	—	—	—

4. 応急措置

飲み込んだ場合： 直ちに医師に連絡すること。手当てを受けること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
眼に入った場合： 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗浄を続けること。医師に連絡すること。
皮膚又は髪に付着した場合： 衣類を直ちにすべて脱ぐこと。皮膚、シャワー、石けんで洗うこと。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は医師の診断、手当を受けること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
吸入した場合： 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。呼吸が不規則又は停止した場合は気道を確保して人工呼吸を施すこと
火災の場合： 適切な消火方法を取ること
ばく露又はその懸念がある場合： 医師の診断、手当を受けること。漏出物を回収すること。

5. 火災時の措置

消火剤： 小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水
 大火災：散水、噴霧水、通常の泡消火剤
 棒状注水
使ってはならない消火剤： 火災時に刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の危険有害性： 可燃性物質：燃えるが、容易に発火しない。
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
 可燃性液体及び引火性液体を含む
 熱、火花及び火災で発火する恐れがある。激しく加熱すると燃焼する。
特有の消火方法： 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
 引火点が極めて低い：散水以外の消火剤で消火の効果がでない大きな火災の場合には散水する。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 安全に対処できるならば着火源を除去すること
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護： 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性、化学用)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

関係者以外の立入りを禁止する。
 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や粉じんやヒュームの吸入を避ける。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。風上に留まる。
 低地から離れる。

環境に対する注意事項:

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
 環境中に放出してはならない。

回収、中和:

封じ込め及び浄化の方法・機材:

乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
 危険でなければ漏れを止める。
 プラスチックシートで覆いし、散乱を防ぐ。

二次災害の防止策:

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
 容器内に水を入れてはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

技術的対策:
 局所排気・全体換気:
 安全取扱い注意事項:

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
 火気厳禁
 容器を接地すること、アースをとること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 防爆型の電気機器、排気装置、照明機器等を使用すること。
 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること 禁煙
 火花を発生させない工具を使用すること。
 この製品を使用する時に、飲食しないこと。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 接触、吸入又は飲み込まないこと。眼に入れないこと
 ヒューム、ミスト、スプレー、蒸気を吸入しないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 「10. 安定性及び反応性」を参照。

接触回避:

【保管】

技術的対策:

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
 保管場所は延焼のおそれのない外壁、柱、床を不燃材料で作ること。
 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。
 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
 取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
 機械類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

保管条件:

適切な場所に換気装置を使用する。
 炎及び熱表面から離して保管すること。
 冷所、換気の良い場所で保管すること。
 直射日光を避けること。
 酸化剤から離して保管する。
 施錠して保管すること。

容器包装材料:

器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:

許容濃度(ばく露限界値、生物学的

ばく露指標):

(オルトジクロロベンゼンとして)	
日本産業衛生学会(2005年版)	25ppm (150 mg/m ³)
ACGIH(2005年版)	TLV-TWA(時間加重平均) 25ppm(150 mg/m ³) A4
	TLV-STEL(短時間ばく露限界) 50ppm

設備対策:

この物質を貯蔵しないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
 高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。
 空中濃度を推奨された管理濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。

保護具

呼吸器の保護具:

蒸気が発生した場合、許可を受けたフィルター付き呼吸用保護具を使用する。
 ABEKフィルターを備えた蒸気フィルター(EN141)付き呼吸用保護具

手の保護具:

適した素材ニトリルゴム。破過時間480分以上。製造者による透過性及び破過時間に関する情報、特別な作業条件(損傷性、接触時間)に注意する。

眼の保護具:

皮膚及び身体の保護具:

気密性の高い安全ゴーグル フェイスシールド
 作業場では、危険物の重量および濃度に応じて、身体用保護具を選ぶこと。
 ゴム又はビニールエブロン ゴム又はビニール長靴。

衛生対策:

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 排水溝または下水溝への流入を防ぐ。

環境における暴露管理:

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、

形状:

臭い:

淡黄色の澄明な液体
 特異臭

引火点: 46.3°C(タグ密閉式引火点)
 粘度: 動粘度 3.19cSt (密度1.212g/m3)

	オルトジクロロベンゼンとして	クロルクレゾールとして	塩化ジデシルジメチルアンモニウム (80%溶液)として
形状、色など:	無色の液体	固体 白色またはわずかにピンク	液体 淡黄色
臭い:	データなし	データなし	アルコール臭
臭いのしきい(閾)値:	データなし		
pH:	弱アルカリ性(水溶液)	データなし	6.5~9(100g/L 25°C)
融点・凝固点:	-17°C(融点)	66°C: ICSC (J) (1997)	10°C
沸点、初留点及び沸騰範囲:	180-183°C(沸点)	235°C: ICSC (J) (1997)	情報なし
引火点:	66°C(密閉式)	118°C: ICSC (J) (1997)	48.7°C(セタ密封式)
爆発範囲:	下限 2.2vol%、上限 9.2vol%	データなし	
蒸気圧:	0.16kPa(20°C)	8Pa (20°C): ICSC (J) (1997)	
蒸気密度(空気 = 1):	5.07 (計算値)	データなし	
蒸発速度(酢酸ブチル = 1):	データなし	データなし	
比重(密度):	1.3059(20°C/4°C)	1.4g/cm3: ICSC (J) (1997)	0.89g/cm3 (25°C)
溶解度:	156mg/L(25°C)	水: 0.38g/100ml (20°C): ICSC (J) (1997)	水 完全に混和
オクタノール/水分分配係数:	log Pow = 3.43(測定値)	log P = 3.1: ICSC (J) (1997)	
自然発火温度:	データなし	590°C: ICSC (J) (1997)	
分解温度:	648°C	データなし	
燃焼性(固体、ガス):	該当しない	データなし	
粘度:	1.324mPa・s(25°C)(粘性率)	データなし	粘度、動粘性率:<100mPa s(25°C)

10. 安定性及び反応性

安定性: 法規制に従った、通常の取扱い条件においては安定である。酸化性物質等に触れると反応する危険性がある。
 危険有害反応可能性: 燃焼すると分解し、塩化水素やホスゲンを含む有毒で腐食性のヒュームを発生する。
 避けるべき条件: 燃焼
 混触危険物質: 還元剤、強酸化剤
 危険有害な分解生成物: 塩化水素やホスゲンを含む有毒で腐食性のヒュームの発生。
 通常発生が予想される一酸化炭素、二酸化炭素以外にも危険有害な分解生成物の発生が考えられる。

11. 有害性情報

急性毒性:

経口

ラット LD50値=930mg/kg♂
 ラット LD50値=984mg/kg♀
 飲み込むと有害(区分4)

経皮

吸入(ガス)
 吸入(蒸気)
 吸入(蒸気)

情報なし
 情報なし
 (オルトジクロロベンゼンとして)ラット LC50=9.2mg/L(6時間)
 (オルトジクロロベンゼンとして)ラット LC50=5.9mg/L(7時間)
 上記2データの計算値=7.8mg/L(1277ppm) (4時間値) 吸入すると中毒(区分3)

皮膚腐食性・刺激性:

ウサギ 適用終了後1時間目では6例中全例の適用部皮膚は中等度もしくは高度の浮腫を伴い、表面が壊死して淡褐色を呈していた。24時間目では適用皮膚はさらに明らかな壊死状を呈して褐色・硬化し、また、障害の周縁部には発赤が見られた。その後浮腫は徐々に消退し、7日目には浮腫が、10日目には発赤が消失した。一方7日目以降、壊死した皮膚は痂皮状となり、14日目の観察においては、6例中2例で痂皮が剥離していた。(区分1C)

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:

ウサギ 投与直後から結膜の充血・浮腫、角膜の混濁がみられ、時間の経過とともに悪化し、特に角膜は前面にわたって混濁し、その後パンヌスが形成され、21日間の観察期間終了時でも回復傾向は認められなかった。しかしながら原液投与後の洗顔例では角膜の混濁が見られたものの軽度なもので、3例中1例は投与後21日目に回復し、残り2例も回復傾向が見られた。(区分1)

呼吸器感受性:

皮膚感受性:

	オルトジクロロベンゼンとして	クロルクレゾールとして	塩化ジデシルジメチルアンモニウムとして
呼吸器感受性:	情報なし	データなし(分類できない)	データなし(分類できない)
皮膚感受性:	確定し得る情報なし	ヒトについては、31名の健常人への5%溶液を用いたパッチテスト、66名の健常人への20%溶液を用いたパッチテストなどで「陽性例は見られていない」が、「0.2~3%の患者が本物質に感受性を示す」旨の報告がある(DFGOTvol.2(1991))。実験動物については、モルモット15匹を用いたMaximization試験で半数以上の動物に「弱い発赤」が見られる(DFGOTvol.2(1991))等、複数の試験で陽性反応が記述されている。(区分1)	Contact Dermatitis (5th, 2011)に接触アレルギー物質として記載されている(区分1) (モルモットを用いた皮膚感受性試験(ビューラー法)で陽性率 0% (0/20)を示し、本物質は感受性物質ではない(not a sensitizer)と報告されている(HPVIS (2009)))

生殖細胞変異原性:

生殖細胞 in vivo 変異原性試験及び生殖細胞遺伝毒性試験では陽性結果がなく体細胞 in vivo 変異原性試験で陽性が認められた遺伝性疾患のおそれの疑い(区分2)
 体細胞 in vivo 変異原性試験(マウス赤血球を用いた小核試験)が「陰性」(HSDB(2003))との記述に基づき、区分外とした。in vitroでのラット肝細胞を用いた不定期DNA合成試験、CHO細胞を用いた前進突然変異(HGPRT)試験、ネズミチフス菌を用いた復帰突然変異試験においても「陰性」(HSDB (2003))との記述がある。
 ラットの経口投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)の陰性結果(USEPA/HPV (2005)) (区分外)(なお、in vitro試験では、エームス試験(HPVIS (2009))、CHO細胞を用いた染色体異常試験(USEPA/HPV (2005))、CHO細胞を用いたHGPRT試験(USEPA/HPV(2005))でいずれも陰

発がん性:	IAC:グループ3 EPA:グループD ACGIH:A4	分類できない 分類できない 分類できない	データなし (分類できない)	雌雄ラットを用いた104週間混餌投与試験(USEPA/HPV(2005))および雌雄マウスを用いた78週間混餌投与試験(HPVIS(2009))の結果、投与に関連した影響として、両試験とも高用量群(ラット:1500 ppm、マウス:1000 ppm)で体重増加抑制を示したが、催腫瘍性は認められず、2種の動物を用いた長期投与試験で発がん性の証拠が得られなかった
生殖毒性:			データ不足のため (分類できない)	データ不足のため (分類できない)
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露):		「高濃度ばく露において、中枢神経抑制作用を示す、中毒性肝炎や腎炎を起こす」との報告がある	粉じんに吸入ばく露されたラットで「鼻、粘膜への一時的な刺激」(DFGOT vol.2(1991))、「気道刺激性」(IGSC(1997))、区分3(気道刺激性)	ラットの急性経口毒性試験(用量:100~400 mg/kg、LD50値 262 mg/kg)において、不活発、流涙、下痢などの症状、死亡例の剖検で胃の褪色および出血、腸に赤褐色内容物が見られたが、生存例では著
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露):		「原液は上部気道に対して刺激性を有す。」58)「実験動物については麻酔作用が認められた。」7)との報告がある。肝臓、腎臓が標的臓器と考えられ、気道刺激性、麻酔作用を示している。 肝臓、腎臓の障害(区分1) 眠気又はめまいのおそれ(区分3) 呼吸器への刺激のおそれ(区分3)	なお、ヒトについて、本物質へのばく露後に「左顔面麻痺」を呈した症例がHSDB(2003)に報告されているが、一例のみであり、一貫性のある影響かどうか判断できないため採用しない。動物については、400 mg/kgを単回経口投与されたラットで「肝臓のミトコンドリアや小胞の増加、粗面小胞体の変化、毛細胆管の拡張などが見られる」(HSDB(2003))旨の記述があるが、重大な影響とは考えられないため、採用しない。	また、ラットの別の急性経口毒性試験(用量:100~500 mg/kg、LD50値 238 mg/kg)では、主な症状として、尿、糞便および唾液の変色、斜視、運動失調、体部振戦、努力性呼吸、軽度~重度の抑制、腹部痙攣などが報告されている(HPVIS(2009))。上記の所見の用量はガイダンス値範囲の区分1に相当するが、標的臓器の特定は困難である GHS分類:区分2(全身毒性)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露):		実験動物については「尿細管変性」、「肺炎(物化性状不明)」の報告がある。58) 実験動物での影響については、肺に対しては区分1、腎臓に対しては区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。神経系、肝臓、呼吸器、血液系、腎臓が標的臓器と考えられた。 長期又は反復ばく露による神経系 肝臓 血液系 呼吸器の障害(区分1) 長期又は反復ばく露による腎臓の障害のおそれ(区分2)	ラットを用いた24ヶ月間混餌投与試験で、21.0 mg/kg以上を投与された群において「腎臓の重量増加及び組織病理学的な変化(雄ラットで腎乳頭壊死、腎皮質の拡張、線維化)、脳の重量の変化及び組織病理学的な変化」(HSDB(2003))が、また、ウサギを用いた21日間経皮投与試験(15回投与)において160 mg/kg(90日換算値26.7 mg/kg)投与群に「肝臓の胆管周囲炎、胆管の増殖」(HSDB(2003))が報告されて(区分2)(脳、腎臓、肝臓)	ラットに13週および104週、マウスに13週および78週の期間にいずれも混餌投与した各試験では、ガイダンス値範囲内の用量で悪影響を示す所見はほとんど見当たらないが、唯一ラットの104週間投与試験でガイダンス値区分2に相当する1500 ppm(75 mg/kg/day)で、腸間膜リンパ節洞の血液充満、ヘモジリン沈着、および組織球増殖が観察された。また、イヌに8週間経口投与した試験において、60 mg/kg/day(90日換算値:37 mg/kg/day)で、嘔吐の増加、流涎、軟便、消瘦などの症状に加え、体重増加抑制と摂餌量低下がみられ、死亡率が増加したと報告されている(HSDB(2010))。以上の所見について、標的臓器の特定が(区分2(全身毒性))
吸引性呼吸器有害性:			データなし	データなし。GHS分類:分類できない

12. 環境影響情報

	オルトジクロロベンゼンとして	クロルクレゾールとして	塩化ジデシルジメチルアンモニウムとして
水生環境急性有害性:	甲殻類 ネコゼミジッコ EC50=0.66mg/L/48H 水生生物に非常に強い毒性(区分1)	魚類(ニジマス) 96時間LC50=0.917 mg/L (AQUIRE, 2008) 水生生物に非常に強い毒性(区分1)	魚類(ファットヘッドミノー) 96時間LD50=0.19mg/L(US=EPA) 甲殻類 ミジッコ EC50=0.062mg/L/48H 遊泳阻害(US-EPA) 藻類 緑藻類ErC50=0.026mg/L/96H 成長阻害(OECD TG201) バクテリア EC50=11mg/L/3H 活性汚泥呼吸器阻害(OECD TG209)
水生環境慢性有害性:	急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いものの(BCF=260 60)、急速分解性がない(BODによる分解度:0% 60)(区分1) 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性(区分1)	①急速分解性がないが(4週間の標準法でBODによる分解度:0%(既存点検, 1983))、甲殻類(オオシッコ)の21日間NOEC = 1.3 mg/L(AQUIRE,	魚類(ゼブラフィッシュ) 34日間NOEC=0.032mg/L (OECD TG210) 甲殻類 ミジッコ NOEC=0.010mg/L/21日間 繁殖毒性(OECD TG211) 土壌中にすむ原生生物への毒性: (ミミズ)NOEC≥1000mg/kg/14日間 (OECD TG207) 陸上生物への毒性: EC50=283~1670mg/kg/14日間 (OECD TG2008) 環境区画への作用:土壌移行性あり

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物:

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装:

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
スプレー缶を廃棄する場合は、自治体により廃棄方法が異なるので該当する自治体の規定に従うこと。

14. 輸送上の注意
**国際規制
海上規制情報**

UN No.:

IMOの規定に従う。

Proper Shipping Name:

 3142
DISINFECTANT, LIQUID, TOXIC, N.O.S.
(ortho-DICHLOROBENZENE, CHLOROCRESOLS)

Class:

6.1

Packing Group:

III

Marine Pollutant:

航空規制情報

UN No.:

ICAO/IATAの規定に従う。

Proper Shipping Name:

 3142
DISINFECTANT, LIQUID, TOXIC, N.O.S.
(ortho-DICHLOROBENZENE, ETHANOL, CHLOROCRESOLS)

Class:

6.1

Packing Group:

III

国内規制
陸上規制情報
海上規制情報

国連番号:

消防法の規定に従う。

品名:

船舶安全法の規定に従う。

クラス:

3142

容器等級:

消毒剤

海洋汚染物質:

6.1

航空規制情報

国連番号:

III

品名:

航空法の規定に従う。

クラス:

3142

容器等級:

消毒剤

特別な安全対策

6.1

III

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。
危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
移送時にイエローカードの保持が必要。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

医薬品、医療機器等の品質有効性及び安全性の確保等に関する法律:

動物用医薬品

労働安全衛生法:

該当

化学物質排出把握管理促進法

(PRTR法):

該当

消防法:

該当

船舶安全法:

該当

航空法:

該当

海洋汚染防止法

該当

16. その他の情報

参考文献

◆ 記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の改定により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は、情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行ってください。